

論文審査並びに最終試験の要旨及び担当者

論文博士	学位申請者氏名 吉田 萌生	
論文題目 角層の性状解析のための蛍光標識ポリマーを用いた新規染色法に関する研究		
(論文審査要旨)		
<p>本論文では、角層からテープストリッピングによって採取した角層細胞を用いて、蛍光標識したカチオン性およびアニオン性ポリマーによる角層細胞の染色性を検討し、議論している。カチオン性ポリマーとしてはポリリシン、アニオン性ポリマーとしてはデキストランを使用し、それぞれの等電点の前後におけるイオン基の乖離状態と染色性を対比させた結果、イオン結合が染色性の駆動力になっていることを明らかにした。次に染色性と皮膚の重要な生理学的パラメーターである角層水分量および経表皮水分蒸散との関係を調べ、染色性は前者とは負の相関、後者とは正の相関があることを明らかにした。この結果は、皮膚の健全度を簡便な方法で調べることに繋がり、将来的には皮膚科の臨床現場や化粧品の販売現場などで活用できる可能性を有すると考えられ、新規性、普遍性の点でも博士論文として問題ないと判断できる。</p> <p>予備審査においては、等電点と染色性に関する詳細な記述の必要性、電解質やアルコールなどの第3成分の影響に関するより深い考察などが求められた。申請者はこれに対し、適切な統計解析手法の選択による深い考察の記述、文章のわかりやすい修正などで対応した。最終審査会においては、質疑応答に対して的確に対応した。また、最終審査要旨では最終審査会の質疑応答で示唆されたわかりにくい部分が修正された。</p> <p>以上を踏まえ、主査、副査による慎重な審査の結果、本申請者による論文は博士論文として十分であると判断し、申請者に博士号を授与することが適当であると結論付けた。以上より論文審査並びに最終試験に合格と判断する。</p>		
2024年 3月 4日		
主査 中瀬 朋夏 印	副査 矢野 義明 印	副査 印
	副査 渡辺 啓 印	副査 印